

の西側は1段高くなり、耕作面が1面になります。遺構はすべて第1調査区の現況面から約0.4m下の地山面で確認されました。

遺構と遺物 (図2・3)

今回の調査では流路1、溝5、土坑17、ピット8が見つかりました。遺構の埋土は大きく4種類に分けることができ、遺構の切り合い関係から褐灰色弱粘質土が最も古く、暗褐色粘質土、灰色粘質土、灰黄褐色粘質土の順に新しくなるようです。

主な遺構としては次のようなものがあります。

流路 第1調査区西側から北側にかけてみつかった流路で、幅が2.5~3.4mありますが、深さは0.1mと浅いものです。流路は第2調査区南西隅あたりから北東に向かい、調査区北端あたりで東に大きく蛇行しています。埋土は褐灰色弱粘質土で、常に流れていたのではなく、雨が降ったときなどに一時的に流れたものであると考えられます。遺物は出土していません。

溝1 第1調査区南西部分で見つかった幅0.6mの溝

です。深さは西側で約0.1mあり、東側では1段低くなり0.2mになります。埋土は暗褐色粘質土で、遺物は出土していません。

溝2 第1調査区で見つかった蛇行した溝で、幅が1.0~1.3mあります。深さは北側が約0.9mあるのに対し、南側は約0.1mと極端に浅くなっています。埋土は褐灰色弱粘質土で、深くなる部分はその下に砂と暗褐色粘質土の堆積が見られます。遺物としてサヌカイトの石鏃と剥片(図2)が出土しています。

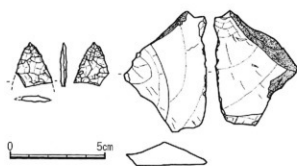


図2 溝2出土遺物

種別	形状	大きさ(m)	深さ(m)	土色	遺物
土坑1	(不整形)	(2.37)×1.83	0.78	暗褐色粘質土	
土坑2	(不整形)	(1.22)×0.58	0.28	暗褐色粘質土	
土坑3	不整形	2.48×1.18	0.32	灰黄褐色粘質土	焼土塊
土坑4	不整形	3.22×1.60	0.77	暗褐色粘質土	
土坑5	不整形	2.12×1.58	0.43	暗褐色粘質土	
土坑6	不整形	1.74×0.89	0.19	暗褐色粘質土	
土坑7	(方形)	(1.21)×1.24	0.63	暗褐色粘質土	
土坑8	楕円形	1.29×1.15	0.28	暗褐色粘質土	
土坑9	不整形	4.08×1.73	0.18	上層：黒褐色粘質土に炭が混じる 下層：褐灰色泥砂弱粘質土	サヌカイト
土坑10	(不整形)	2.12×(1.28)	0.7	暗褐色粘質土	
土坑11	(不整形)	(1.44)×1.38	0.05	褐灰色粘質土	
土坑12	(楕円形)	(2.21)×(0.74)	0.08	褐灰色粘質土	
土坑13	不整形	1.68×0.66	0.17	暗褐色粘質土	
土坑14	(不整形)	2.96×(1.12)	0.56	暗褐色粘質土	
土坑15	不整形	1.44×0.94	0.08	褐灰色粘質土	
土坑16	(不整形)	(3.92)×1.88	0.11	褐灰色粘質土	
土坑17	(不整形)	(1.34)×1.10	0.22	褐灰色粘質土	
P-1	(不整形)	0.54×(0.42)	0.1	褐灰色粘質土	
P-2	(不整形)	0.92×(0.48)	0.06	灰色粘質土	
P-3	不整形	1.41×0.70	0.05	褐灰色粘質土	
P-4	(楕円形)	1.51×(0.42)	0.11	灰色粘質土	
P-5	(隅丸方形)	(0.75)×0.70	0.55	暗褐色粘質土	
P-6	(不整形)	0.60×(0.54)	0.28	褐灰色砂質土に礫を含む	
P-7	(不整形)	1.12×(0.24)	0.11	褐灰色粘質土	
P-8	楕円形	0.43×0.25	0.09	褐灰色粘質土	

表1 遺構一覧表

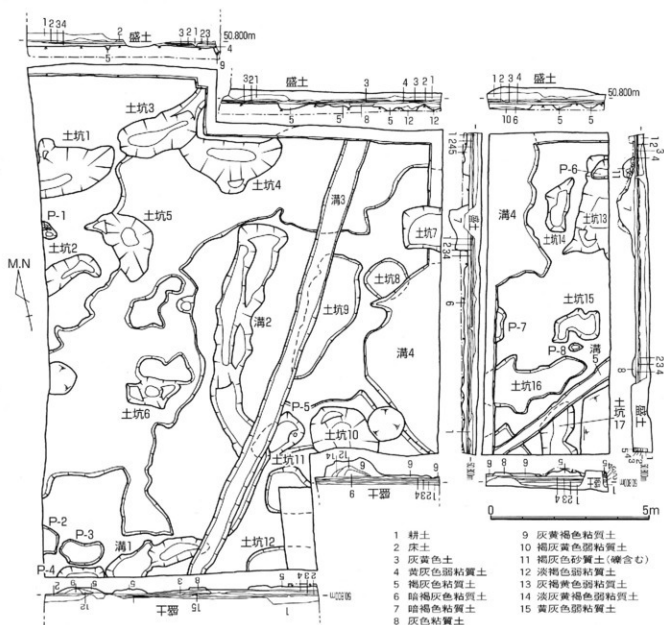


図3 遺物平面・断面図

溝3 第1調査区中央を南北に通る、幅約1.5m、深さ約0.1mの浅い溝で、底部は南から北へ傾斜しています。埋土は灰色粘質土で、6世紀代の須恵器の小片が1点見つかっていますが、周囲の調査から中世の遺構と考えられます。

溝4 第1調査区から第2調査区東側にかけて見つかった溝で、第1調査区で西屑を、第2調査区で東屑を確認しています。深さは約0.1mあり、幅は両調査区にまたがっているため正確な幅は不明ですが、1.5~2.0mと推定されます。西屑の形状から溝は直角に折れ曲がっているようです。埋土は暗褐色粘質土で、遺物は出土していません。

溝5 第2調査区南側で見つかった南西から北東

へ通る溝で、幅約0.3m、深さ約0.1mあります。埋土は灰色粘質土で、遺物は出土していませんが、東隣にある富田林市教委1997年度調査地でこれにつながる溝が見つかっており、この埋土からは瓦器碗の破片が出土しています。

まとめ

今回の調査地点の東隣にある富田林市教委1997年度調査地で北西方向の主軸を持つ弥生時代中期の方形周溝墓が見つかっています。このとき見つかったのは墓の東半分で、今回見つかった溝4が、溝の方向と埋土の色調からこの方形周溝墓の周溝の西半分にあたると思われる(図4)。

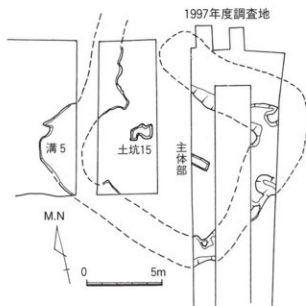


図4 方形周溝墓復元図

この方形周溝墓は東西約14.7m、南北約11.5mと復元することができ、墳丘は上面で東西約10.0m、南北約7.5mあります。北側の角は周溝が途切れていたと考えられ、墓の中へ出入りできたようです。1997年度調査地では墳丘の端に近い所で長方形の墓塚が確認されています。土坑15はこの墓塚と対称の位置にあるので土器棺などの堀方になる可能性もありますが、遺物が出土していないためよく分かりません。

近鉄長野線の東側には方形周溝墓が南北に細長く分布しており、これまでに南北約250mの間に今回のものを含めて8基が確認されています。今回の



調査区全景(東から)

方形周溝墓はこの方形周溝墓群の南端にあたります。また西側には流路があり、これより西側に弥生時代の墓域が広がらないようです。

今回の調査では遺物がほとんど出土しておらず、周辺の調査を含めてピットがあまり見つからないことから、この辺りが集落から離れた地点であると考えられます。この辺りは粟ヶ池から北へ延びる開析谷の底の部分に当たり、粟ヶ池はこの谷をせき止めて造られています。KSW92-1調査地では粟ヶ池がせき止められる前に流れていた流路が見つかっており、この流路による洪水を恐れて集落を造らなかつたと思われる。

ふりがな	きしにしいせき2							
書名	喜志西遺跡Ⅱ							
副書名	富田林市遺跡調査会報告							
巻次	20							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著書名	田中正利							
編集機関	富田林市遺跡調査会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000							
発行年月日	西暦2000年7月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
喜志西遺跡	大阪府富田林市 喜志町三丁目 968-3他6筆	27214		34° 31' 12"	135° 36' 37"	2000.6.1) 2000.7.31	207.6	共同住宅 建設に伴う 緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
喜志西遺跡	墓域、その他	弥生時代～中世		溝、土坑、流路 ピット		サヌカイト		